

題材		時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A1章 青年期の自立	① 人の一生と青年期	2	A(1)アイ A(2)アイ	○生涯発達と青年期について理解する。 ・ p.12-13から「青年期の自立」で関心をもっていることを挙げる。 ・人は生涯を通じて発達することを理解し、これから先、今の自分のよい所をどのように伸ばしていきたいのか、考える。	・人の一生について、生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解している。	・自己の意思決定に基づき、責任をもって行動すること、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことなどについて主体的に考え、問題を見いだして課題を設定している。	・青年期の自立について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	② 青年期を生きる	2	A(1)アイ A(2)アイ	○性とパートナーシップについて理解する。 ・自立には5つの重要な側面があり、バランスよく発達することが大切であることを知る。 ・自立と共生は対立する概念ではないこと、共生の視点をもった自立こそが真の自立であることに気づく。 ・ジェンダーとは何か、現在も社会の中にさまざまなジェンダーバイアスが存在することを理解する。 ・DVについて理解をし、教科書 p.19の課題などから、DVの当事者はどのような考えでそのようなことをするのか、ジェンダーと結びつけて考える。 ・男女共同参画社会の実現について、これまでの学習をふまえ、これからの社会がどうあるべきか考える。	・青年期の課題である自立について理解している。 ・青年期の課題である男女の平等と協力について理解している。	・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことについて、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

題材	時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
③ 将来を見通しこれから生きる	2	A(1)アイ A(2)アイ	<p>○これからの進路や働き方について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書p.20の導入課題を確認し、将来、社会(家庭を含む)の中で、自分をどう生かし、どのような生き方をしたいか考える。 ・これからの生き方についてグループになり、話し合う。教科書p.20の「進路を決定するためのプロセス」を確認し、意思決定のプロセスを知る。 ・進学する場合の費用について知り、p.21の課題から、どのように学費を支払うか、見通しをもつ。 ・さまざまな雇用形態を知り、p.24-25の「求人票」や「給与明細」を参考に、将来どのような職業に就くか、考える。 ・労働者の権利をまもるしくみを知り、それが守られない場合に解決する方法について、p.23の課題をもちいて考える。 ・教科書p.27「生活に生かす」で青年期の自立の学習を振り返りまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題である意思決定の重要性について理解している。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行うことを理解しているとともに適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の自立と家族・家庭について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

題材		時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A2章 家族・家庭	① 自分が拓く人生	2	A(1) アイ A(2) アイ	<p>○生活設計と家族・家庭について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.28-29から「家族・家庭」について関心をもっていることを挙げる。 ・「生活資源」の定義を確認し、その種類について知る。 ・金銭やモノ以外の生活資源の重要性について考え、さまざまな生活資源を活用して生活設計をすることの重要性を知る。 ・家族の範囲のとらえ方は人によってさまざまであり、多様化していることを知る。 ・p.32「小・中学校の学びとつなげる」での家庭の機能をふりかえり、自分が考える家庭の機能と比べる。 ・家庭の機能の変化は社会の変化とともに、効率化や新たな産業の出現によるところが大きい。家庭の機能は日常的な生活運営が縮小していることと、情緒的な機能へとシフトしていることを理解する。 ・世帯規模は縮小し、世帯数は増加している。世帯敬体の変化は、就業する産業、社会的なサービスの有無、家族関係の意識の変化によっても変化することを理解する。 ・結婚にかかわる意識の変化と現状をさまざまなデータから読み解き、結婚の意味を考える。 ・少子化の現状と課題を理解する。子育ての役割が女性に集中するようになったことと、その影響について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した生活を営むために必要な情報（生活資源）について理解している。 ・家族・家庭の機能と家族関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことについて主体的に考え、問題を見いだし課題を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	②個人・家族と地域・社会	4	A(2) アイ	<p>○個人・家族と地域・社会の関係について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な家族形態を知り、家族形態の「個人の基本的人権の尊重」について、p.35の「家族関係を見つめ、新たに創る視点」から考える。 ・教科書p.31をみて、家族に関することは基本的に家庭内で男女の協力の下に行われるが、社会全体で支援する制度や地域の組織の充実が必要なことを理解させ、③の家族と法律につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことについて考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の構築に向けて、家族・家庭について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

題材	時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
③家族と法律	2	A(2)アイ	<p>○家族・家庭生活に関する法律について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民法・親族編において婚姻・離婚・親子関係・扶養・相続があることを知る。 ・これまで改正された民法について理解し、時代の変化とともに法律も変化することを知る。 ・p.40-41の家族に関する法律から、結婚・離婚・親子関係・扶養・相続に関する条文を読む。 ・法律(例:婚姻の効力等)について、グループワークを行う。 ・グループワークを踏まえ、自分の考えをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭の機能と家族関係について理解している。 ・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことについて、実践を評価したり、改善したりしている。 	
④ 持続可能な家庭生活	2	A(2)アイ	<p>○家庭生活と経済の安定について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が貧困に陥りやすいリスク要因は何か、さらに経済的困窮が及ぼす影響は何か、考え発表する。 ・社会保障制度にはどのようなものがあるかを具体的に示し、リスクに対する制度とその受け方、相談先を知る。 ・現在の日本が抱える社会保障問題点について考える。 ・住んでいる地域社会の中で行われている互助的な活動を挙げ、さまざまな人びとが参加して取り組む地域福祉について話し合う。 ・教科書p.49「生活に生かす」でこれから自分はどのように「家庭」や「地域」と関わっていくか考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことや根拠やり湯を明確にして筋道を立てて説明したり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

指導計画・評価規準案（子どもの生活と保育） p.50～75

題材		時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A3章 子どもの生活と保育	① 子どもの世界	6	A(3)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの人を引き寄せる力・育とうとする力について理解する。 ○現代の子どもを取り巻く問題や権利について理解する。 ・p.50-51から「子どもの生活と保育」で関心をもっていることを挙げる。 ・子どもの言動などで面白いと思ったこと、感動したことを挙げる。 ・子どもは生まれながらに人とかかわる力を持っていることを知る。 ・子どもの権利条約について知り、子どもを権利の主体としてとらえる。 ・教科書p.53「考えてみよう」から、子どもを取り巻く問題についてグループで話し合い、意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く社会環境について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを生み育てることの意義、子どもの健全やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について問題を見いだして課題を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	② 育つ子ども	4	A(3)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児の心身の発達の特徴について理解する。 ○乳幼児の発達には順序があることを理解し、発達の目安を捉える。 ○子どもの発達における遊びの意義について理解する。 ○よい玩具の条件や遊びの種類について理解する。 ○基本的な生活習慣や社会的な生活習慣の重要性について理解する。 ○子どもの健康と安全について理解する。 ・子どもの身体的発達の特徴、発達の順序性と個人差について知る。 ・認知と情緒の発達について知る。 ・教科書p.55「考えてみよう」から、自分の幼児期を振り返るとともに、第一次反抗期の子どもの気持ちを考える。 ・子どもの遊びと発達のかかわりを知り、子どもにとっての遊びの重要性に気づく。 ・好きだった絵本や玩具などを挙げ、児童文化財について知る。 ・子どもの生活習慣習得には周囲の大人の適切な支えが重要であることに気づく。 ・子どもの健康を支える制度や子どもの事故について知り、子どもの健康と安全について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 		

題材	時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
③子どもとかわる	4	A(3)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもと適切にかかわるための基礎的な技能を身につける。 ・電車の中で子どもが泣いたりぐずったりしたとき、周囲のおとなはどのようなかわり方をしているか、自分ならどうするか、発表する。 ・子どもの気持ちを理解し、寄り添って接することの大切さを知る。 ・子どもとふれあうときのポイントや注意点などを知る。 ・教科書p.63から、子どもの気持ちに寄り添ったかわり方の工夫を考える。 ・ふれあい体験における自分の課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と適切にかかわることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の構築に向けて、子どもの生活と保育について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
④子どもの育ちを支える	4	A(3)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○養育者も子どもと共に成長していくことを理解する。 ○児童虐待を取り巻く問題について理解する。 ○社会全体で子育てを支援するため、子育ての環境を整備する重要性を理解する。 ○子育てを支える福祉や子どもに関する社会保障について理解する。 ・将来、親になったときのことを想像し、どのような親になりたいか、子どもとどんなことがしたいかなどを挙げる。 ・愛着と養育者の役割について知る。 ・教科書p.68-69から、児童虐待の実情を知り、子どもを虐待から守るためにはどうしたらよいか考える。 ・子どもに関する社会保障や子育てをサポートする制度について知る。 ・教科書p.75「生活に生かす」で子どもの生活と保育の学習を振り返りまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の役割と保育について理解している。 ・子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを生み育てることの意義について考えると共に、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活と保育について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

題材		時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A4章 高齢者との関わりと福祉	①さまざまな高齢期	2	A(4)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者・高齢期の特徴について理解する。 ○認知症について理解をし、認知症をもつ高齢者に対してどのように接していたらよいか考える。 ・高齢者のイメージを挙げる。 ・身近にいる高齢者の例やエピソードを挙げ、共通点をまとめながら、高齢者の多様性に気づく。 ・高齢者の身体的変化について理解を深める。 ・認知症の種類と症状を理解する。 ・認知症を抱えた身近な高齢者とのように関わっていったらよいかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特徴について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活、家族や地域及び社会の果たす役割について問題を見いだして課題を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	②高齢者の尊厳と自立	4	A(4)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○人間の尊厳や高齢者の自立について考える。 ○日本の抱える高齢者虐待の問題や介護者への支援について理解を深める。 ・高齢者が人間の尊厳を「保つ」「守る」ためにはどんな環境やサポートが必要か考える。 ・日本の高齢者虐待の現状を理解する。 ・高齢者の介護に伴う介助者の問題を知り、日本の介護の課題を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳について理解している。 		
	③高齢者の生活と福祉	4	A(4)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者がどのように生活しているか理解する。 高齢者にかかわる福祉について理解する。 ・高齢者世帯の収入、所得について理解する。 ・教科書p.84-87のQ&Aを読み、教科書p.46とかかわらせながら公的年金や、医療保険、介護保険制度について理解する。 ・地域包括ケアシステムについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活の支援や介護について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	④高齢者の生活を支える	4	A(4)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者とのかかわり方を理解する。 ・高齢者の生活支援について知り、疑似体験を行い介助の基本を身につける。 ・地域の高齢者施設や身近な高齢者と交流できる場合は、教科書p.90「交流の前に」を確認し、計画をたてる。 ・教科書p.93「生活に生かす」で高齢者の生活と福祉の学習を振り返りまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活の支援や介護について理解しているとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 		

指導計画・評価規準案（共生社会を生きる） p.94～97

題材		時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5章 共生社会を生きる	共生社会を生きる	3	A(5) アイ	<p>○共生社会の特徴について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会について知る。 ・ノーマライゼーションについて知り、バリアフリーやユニバーサルデザインの具体例に触れながら理解を深める。 ・経済のグローバル化における光と影について知る。 ・教科書p.97「話し合ってみよう」から、平等や公平について考え、自分なりの考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合っ て生活することについて問題を見いだして課題を設定している。 ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合っ て生活することについて、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・よりよい社会の構築に向けて、共生生活と福祉について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・共生生活と福祉について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

題材	時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B1章 食生活の科学と文化	①日本の食生活の今	4 B(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○どのように食べ、どのように暮らしているか、自分の食事を振り返ることができる。 ・教科書p.98-99から食生活に関心を持っていることを挙げる。 ・日本の食生活の変化を知り、日本の食生活における問題点について考える。 ・日々の食事の重要性や食事を共にすることの意義について知る。 ・食事と健康との関係を知り、自分の食生活を振り返って課題を挙げる。 ・自分の食生活の課題に対して、改善策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期における毎日の食事の重要性、食事を共にすることの意義について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	②五大栄養素の働きと食品	6 B(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○五大栄養素とその働きについて理解する。 ・教科書p.104-105から、五大栄養素について確認する。 ・たんぱく質について知る。 ・アミノ酸スコアについて知り、効率的な摂り方について考える。 ・脂質について知る。 ・炭水化物について知る。 ・班ごとに無機質・ビタミンの種類を選び、教科書を参考に調べる。調べたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と機能について理解している。 		
	③おいしさと安全の科学	4 B(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○調理の目的について理解する。 ○食品の安全について理解する。 ○調理の基本について理解する。 ・調理の目的を知る。 ・教科書p.117「話し合ってみよう」から、これまでの経験を振り返り、おいしさにかかわる要因について考える。 ・食品を選ぶときに大切だと思うことは何か考える。 ・新鮮な食品を選ぶ方法や食品の表示やマークの表す内容について知り、食品選びのポイントを整理する。 ・食品の適切な保存方法や、調理器具の適切な取り扱い方を知り、安全で衛生的な調理について考える。 ・食品の切り方や加熱方法について知る。 ・調理実習の進め方について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしさの構成要素や食品衛生について理解している。 		

題材	時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
④さあ 料理を始めよう	12	B(1)アイ	○料理の様式に適した調理法などを理解する。 ○日常的な食事を整えることができる。 ・調理実習	・食品の調理上の性質を理解しているとともに、目的に応じた調理ができる。	・食の安全や食品の調理上の性質を考慮した献立作成や調理計画について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
⑤料理の組み合わせを考えよう	2	B(1)アイ	○食事摂取基準について理解する。 ○献立について理解する。 ・どのような食事がよい食事と思うか挙げる。 ・食事摂取基準と食品群別摂取量のめやすを踏まえた献立の作成について知る。 ・教科書p.177「考えてみよう」から、バランスのよい献立作成に取り組む。	・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解する。 ・食品の栄養的特質について理解している。 ・自己や家族の食生活の計画・管理について理解しているとともに、適切にできる。		
⑥多様な食文化	2	B(1)アイ	○和食の特徴について理解する。 ○世界の食文化について関心をもつ。 ・日本の伝統食と聞いて思い浮かべるものを挙げる。 ・日本の食文化を知る。 ・世界の食文化の特徴を知る。 ・教科書p.147「話し合ってみよう」から、和食の継承、発展について考える。	・伝統的な和食の特徴について、理解している。	・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	
⑦持続可能な食生活	2	B(1)アイ	○日本や世界の食料自給率の現状から食糧事情について理解する。 ○持続可能な食生活に向けて取り組めることを考える。 ・食生活にかかわる問題を知る。 ・食品の安全を守るしくみや持続可能な食生活に向けた取り組みを知る。 ・教科書p.151「話し合ってみよう」から、食品ロスについて考え、自分にできることをまとめる。 ・教科書p.152「生活に生かす」で食生活と健康の学習を振り返りまとめる。	・健康や環境に配慮した食生活について、理解している。	・健康や環境に配慮した食生活について解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	

題材		時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B2章 衣生活の科学と文化	①人間と被服	2	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○衣服の社会的背景について理解する。 ○衣服の役割について理解する。 ・教科書p.154-155から、衣生活で関心をもっていることを挙げる。 ・被服を身につける理由について考える。 ・小・中学校で学んだ衣服の働きを振り返り、衣服の起源や被服の機能について確認する。 ・教科書p.159 [図] から、ライフステージに応じた被服について考え、安全で健康な被服の着用についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装について問題を見いだして課題を設定している。 ・目的に応じた着装について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	②被服の科学と管理	2	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○衣服の素材の特徴について理解する。 ○着心地と衣服の素材の性能について理解し、性能改善の工夫を知る。 ○適切な被服管理の方法について理解する。 ○洗濯の原理について理解し、科学的な視点から被服管理ができる力を身につける。 ・着用している衣服の繊維名や組成表示を調べる。 ・繊維の種類や特徴、布の特徴を知る。 ・性能向上のための様々な加工について知る。 ・着用によって生じる被服の汚れや傷みなどを挙げ、手入れの必要性について考える。 ・洗濯の種類と特徴を知り、身近な例を挙げて、適切な洗い方や注意事項について調べる。 ・界面活性剤の働きと汚れを落とすしくみについて、実験や示範見学、動画などを用いて理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料、被服衛生について理解しているとともに、被服の管理が適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能性や快適性について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

題材	時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
③被服の選択と安全	2	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○被服計画の必要性について理解する。 ○表示を読み取り、着心地や管理、安全を考えた被服の選択ができる力を身につける。 ・被服を購入するときに重視していることを挙げる。 ・被服計画を立てることの利点、合理性を認識し、既製服購入時のポイントについてまとめる。 ・正しい採寸の方法を確認する。 ・着用している被服の組成表示、取扱い表示を記入し、それらの意味を調べる。 ・被服による健康被害や衣服を原因とする事故について事例を通して知り、安全な衣服の選択について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服構成について理解しているとともに、被服の計画が適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で健康に配慮した被服の管理について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	
④衣生活の文化	2	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○民族衣装の成り立ちが、気候や風土と密接な関係であることを考える。 ○日本の民族衣装の着物の特徴を知る。 ・世界の民族衣装が発展してきた理由を考える。 ・日本の民族衣装について考える。 ・着物やその文化を生活に取り入れるにはどうしたらよいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界の衣文化や被服と人との関わりについて理解している。 		
⑤被服をつくる	12	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○製作の計画・管理に必要な技能を身につける。 ○ものづくりを通して、個性を表現し生活を楽しむ態度を養う。 ・小・中学校で学んだ縫製技術を確認する。 ・被服製作の工程を理解し、必要な準備をする。 ・製作をする。 ・製作記録を記入し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服製作について理解しているとともに、適切にできる。 		
⑥持続可能な衣生活	2	B(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○衣生活における持続可能な社会について理解する。 ○持続可能な社会を目指して自分ができることを考える。 ・衣生活にかかる費用や衣料品の廃棄率等を知り、衣生活の課題点を挙げる。 ・教科書p.187「イラストを見て考えよう」から、持続可能な衣生活に向けた具体的な工夫を考え、まとめる。 ・教科書p.189「生活に生かす」で衣生活と健康の学習を振り返りまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した被服の管理について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活と健康について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

題材	時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B3章 住生活の科学と文化	①人間と住まい 4	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の状況によって求められる住宅機能の変化について理解する。 ○家族の生活と各ライフステージに応じた住居の条件について考える。 ○住居の平面図について読み取ることができる。 ・ p.190-191から住生活に関心をもっていることを挙げる。 ・社会がおかれている状況と住まいにはどんな課題があるか考える。 ・伝統的な日本家屋の特徴や世界のさまざまな住まいから、気候や風土、生業に適応した住まい方の工夫を知る。 ・家族構成の変化に応じて住要求も変化することを理解し、高齢期の住まいに求められる機能と、高齢者が暮らしやすい住まいの工夫を整理する。 ・平面図や平面表示記号の見方を知り、教科書p.198「話し合ってみよう」などの間取りから、快適な住まいについての希望や考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界の住文化について理解している。 ・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりや、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境について問題を見いだして課題を設定している。 ・住居の機能性や快適性について解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	②健康で快適、安全な住まい 2	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○健康で快適、安全な住生活を営むことができる住居の条件を理解し、対策ができる。 ○災害の特徴について知り、災害意識を高める。 ○災害に強い社会に関心を持ち、主体的に災害対策を考える。 ・教科書から快適な住居の条件を上げ、教室内や自宅で対策ができることを挙げる。 ・教科書p.202「考えてみよう」から、家庭内事故の特徴を知り、事故を防ぐ対策を考える。 ・教科書から日本が地震大国である理由を確認するとともに、その対策を個人（家庭）・地域・行政の立場に整理して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な住居の計画・管理について理解しているとともに、適切にできる。 ・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の構築に向けて、住生活と健康について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	③持続可能な住生活 2	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な住生活とはどのようなことか考え、そのために私たちができることを考える。 ・エネルギー問題について理解し、環境に配慮した住まい方について考える。 ・住生活の費用について課題点を挙げ、解決法を考える。 ・暮らしている町の文化性や歴史性に気付き、景観やまちづくりを評価できる。 ・教科書p.210「話し合ってみよう」から、自治体や海外の住宅政策の事例を調べ、よいと思うことをまとめる。 ・ p.213「生活に生かす」で学習をふり返りまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・住居と地域社会との関わりについて、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住生活と健康について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

指導計画・評価規準案（生活を支える経済） p.214～225

題材		時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
C1章 生活を支える経済	①収入と支出	4	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○家計の収入と支出（種類・流れ）について理解する。 ○家計の管理について理解する。 ・ p.214-215から消費生活・環境で関心をもっていることを挙げる。 ・どのようにして収入を得ているか挙げる。 ・教科書p.216の給与明細表を参考に、収入・支出（消費支出、非消費支出）について確認する。 ・ライフステージごとの家計の特徴を知り、生涯を見通した家計管理の重要性に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の構造について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	②貯蓄と負債	4	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○貯蓄の目的、方法について理解する。 ○ローンの種類・利子について理解する。 ・貯蓄の目的は年齢層によって異なることを知る。 ・貯蓄のさまざまな方法を知る。 ・教科書p.220「考えてみよう」から、日本の貯蓄率について考える。 ・お金を借りることについて知り、借りる際の注意点について考える。 ・教科書p.221「考えてみよう」から、金利の違いについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家計管理について理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	③世界とつながる家計	4	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> ○経済のグローバル化について理解し、自立した消費者として考える。 ○家計マネジメントの知識を身につける。 ・家計と経済の関係を知る。 ・金融市場について知り、金融商品を選ぶ3つの視点で選択しリスクも考えた上で利用することが大切であることに気づく。 ・私たちの生活は国際経済の影響を受けることを知る。 ・長い人生の中で起こりうるリスクも考慮し、将来を見据えた家計マネジメントの重要性に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活における経済と社会とのかかわり、家計管理について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活における経済の計画について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

題材		時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
C2章 消費行動と意思決定	①消費生活の現状	1	C(2)アイ	○消費生活の現状について理解する。 ○悪質商法の危険性について理解し対処法を考える。 ・知っている消費者問題について挙げる。 ・消費者問題の歴史，さまざまなトラブルについて知る。 ・なぜだまされるのか，なぜだますのか，グループで話し合い，消費者被害を防ぐ方法を考える。	・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題について理解している。	・自立した消費者として，生活情報を活用し，適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだし課題を設定している。	・消費行動と意思決定について，課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	②消費生活の落とし穴	1	C(2)アイ	○消費生活の特徴と問題点について理解する。 ○キャッシュレス決済のしくみ，問題点について理解する。 ・情報リテラシーについて知り，その重要性に気づく。 ・契約について知る。 ・クレジットカードのしくみを知り，利用上の留意点を考える。 ・教科書p.195「話し合ってみよう」から，キャッシュレス社会のメリット，デメリットについて考える。	・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定や契約の重要性について理解するとともに，生活情報を適切に収集・整理できる。		・よりよい社会の構築に向けて，消費行動と意思決定について，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。
	③行動する消費者	1	C(2)アイ	○消費にかかわる法律や制度について理解する。 ○消費者の権利と責任について理解する。 ・購入した商品に欠陥があったときどうするか，発表する。 ・消費にかかわる法律や制度について知る。 ・消費者の権利と責任を知り，自立した消費者について自分の意見をまとめる。	・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費者保護の仕組みについて理解している。	・自立した消費者として，生活情報を活用し，適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現している。	・消費行動と意思決定について，課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

題材		時数	指導要領	○学習目標 / ・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
C3章 持続可能なライフスタイルと環境	①消費生活の裏側で	1	C(3)アイ	○環境に与える影響について理解する。 ・なぜ海外でつくられた服が多いのか、理由を挙げる。 ・消費生活の裏側で起きているさまざまな問題について知り、自分の消費行動と関連させて考える。	・生活と環境とのかかわりについて理解している。	・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・持続可能なライフスタイルと環境について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
	②消費者として取り組む	1	C(3)アイ	○持続可能な社会を目指した国際的な取り組みとその重要性について理解する。 ・SDGsの目標12について知る。 ・教科書p.236から、飢餓人口増加の理由について話し合う。 ・環境負荷を低減する企業や行政の取り組みを知り、家庭や個人で取り組めることは何か具体的に考える。	・持続可能な消費について理解している。		
	③持続可能な社会とライフスタイル	1	C(3)アイ	○持続可能な社会を目指したライフスタイルを考える。 ・地球環境問題への取り組みの変遷を知る。 ・持続可能な社会を目指したライフスタイルについて話し合い、自分の意見をまとめる。 ・教科書p.241「生活に生かす」で消費生活と持続可能な社会の学習をふり返りまとめる。	・持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。	・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	